

式 辞

長く続いた冬の寒さもようやく緩み、心和む春がやってまいりました。

本日ここに、中部学院短期大学部第 55 回卒業式を挙げるにあたり、ご多忙の中をご臨席頂きました各務原市長浅野健司様をはじめ、来賓の皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、只今学位記を授与された卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の制約のある中での 2 年間は、想像以上に大変であったと思います。その意味においても、今日、この長良川国際会議場で、名指揮者岡野公孝先生率いる吹奏楽部約 70 名による演奏によって卒業式を祝うことができますことは感無量のものがございます。この思いは卒業までの日々を共に歩んできた教職員一同も同じです。そして、別室にてこの卒業式を見守ってくださっている保護者の皆様、本当におめでとうございます。今日までお支え頂きましたことにも感謝申し上げます。

卒業生の皆さんがこの世に生を受け、そして、ちょうど歩き始めたころに流行った歌に SMAP の「世界に一つだけの花」があります。「NO 1 にならなくていい もともと特別な ONLY ONE」。一人ひとり違い、一人ひとりが、世界で特別な存在であることを歌ったこの歌は、今でも世代を越えて歌い継がれています。「一人ひとりが、特別な存在であること」は、神様が聖書の中で伝えてくださっていることにもつながります。

さて、「短期大学」は 56 年の歴史がありますが、短期大学が所属する学校法人岐阜済美学院は、100 年以上の歴史があります。岐阜済美学院には幼稚園や高校そして大学や短期大学などが名を連ねています。その基礎は、1918 (大正 7) 年に片桐龍子先生により、女性の自立のための教育を目的として置かれました。戦後、片桐孝先生が、キリスト教主義の学校とされ、旧約聖書の箴言 1 章 7 節「神を畏れることは知識のはじめである」という聖句を建学の精神と定められました。箴言は、知恵の書とも呼ばれるほどに人間についての深い洞察がなされていますが、その中心に据えられているのが「神を畏れることは知識のはじめである」という言葉です。この神を畏れるは、怖がることではなく、敬うということです。ですから、これは、「神様を敬うことが人間について理解するはじめである。自分について理解するはじめである」と言い換えることができます。人間について、自分について理解することを全ての学びの根底に据えているのです。「学びは自分の知恵を超えた大きな愛の存在に気づき、敬い感謝することから始まる」ということです。自分よりも優れた知恵のあるものを知って謙虚になる事は劣等感とは違います。劣等感は自分を縛りつける厄介なものですが、謙虚さはむしろ自分を解放し、理解力を高めてくれます。ですからどうぞ、「謙虚であってください」そして、「生きていることを喜ぶ」人生を歩んでください。感謝して、自分自身が自分を認めてやり、それを楽しく伸ばすことを意識してください。

本学のスクールモットーは、「生きる、を学ぶ」です。「生きる、を学ぶ」とは人生で最も大切なものは何かを求めることです。そのためには、私たちのトレードマーク「笑顔と挨拶」を忘れないでください。笑顔と挨拶は人間に与えられた特権です。在学中、私たちはキャンパスやスクールバスで交わす笑顔と挨拶に、お互いに励まされ元気づけられてきました。辛く厳しい状況の時でも笑顔と挨拶は自分をも支えてくれる幸せへのパスポートです。笑顔と挨拶は、ほかの人のみならず自分をも元気づけるものです。卒業後も、あなたに出会った人々が、子どもたちが、前より一層明るく、心が軽くなるように実践し続けてください。

結びに、神様の祝福が卒業生のお一人お一人の上に、ここに連なる全ての人の上に、豊かに注がれますことを心から願って式辞と致します。

2023年3月18日
中部学院大学短期大学部
学長 片桐史恵